

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

74

福岡県立八女高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	校訓(「質実剛健」)の理念に基づき、文武両道の実践を通じて、「知徳体」の調和のとれた人材の育成を目指す。 ①目指す生徒像・・・志の実現のために、学び、挑み、和を尊び、社会に貢献できる人物。 3つの力(自立的に行動できる力・探究する力・協働する力)と8つの資質能力(主体性・創造性・他者理解・批判的思考力・構想力・見通す力・コミュニケーション力・自己調整力)の育成 ②目指す教師像・・・生徒のよさを見出し伸ばすことのできる教師(能力、適性、可能性、性格 等々)			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<small>本年度教育目標を「質実剛健」の校訓の理念に基づき、文武両道の実践を通じて、「知徳体」の調和のとれた人材の育成を目指すとした。また、理想の生徒像を、「志の実現のために、学び、挑み、和を尊び、社会に貢献できる人物」とした。昨年度は、年度重点目標を概ね達成できたが、各行事及び取り組みの評価を十分に共有できておらず、そのため、振り返りの弱さが散見された。今年度は、スクールミッションやスクールポリシーのもと、教育課題に取り組みとともに、8つの資質・能力(主体性、創造性、他者理解、批判的思考力、構想力、見通す力、コミュニケーション力、自己調整力)を意識した教育活動を行い、更に魅力的な学校づくりをおこなっていく。</small>	本校の教育理念や目標を全職員で共有し、全ての教育活動を具現化する。	これからの社会を見据えて、3つの力と8つの資質能力の育成を掲げ、教育活動を展開する。		
	基本的な生活習慣を確立し、自己管理能力を育むとともに、逞しさの醸成を図る。	学年に応じた振る舞いと、様々な場面での「気づき」を育て、自己調整のできる人材を育成するとともに、いじめのない「安全安心な学校」づくりを行う。		
	授業改善に基づく教科指導力の向上(「主体的・対話的で深い学び」の実践)	教師それぞれが自分の授業と真摯に向き合い、生徒の声に耳を傾け、自己研鑽に努める。授業アンケートから、授業の課題を明確にし、それを改善することで教科指導力の向上を図る。		
	生徒の進路意識の高揚と高大接続への対応	社会及び高大接続改革を踏まえたキャリア教育の取組を整備強化し、生徒の進路意識を高める。特に、1年次、2年次の取組を重視し、一人ひとりの進路実現に向けた頑張りを支援する体制を作る。		
	「学びの振り返り」の徹底とカリキュラムマネジメントの充実	教務及びキャリア教育課連携の下、考査及び模試分析を丁寧に行う。そのことで見えた本校の教育課題に適切に対処し、生徒の「今」と「これから」を考えさせる。また、カリキュラムマネジメントの充実を図り、教科横断的な取組はもとより地域とつながった組織的な教育活動を展開する。		
地域連携と主権者教育	地域に対して、本校の責任(役割)を提示し、丁寧な広報を行うことで地域に根付いた学校づくりを促進する。また、主権者教育や「地域協奏プロジェクト」など、地域社会と関係性の深い学びを通じて、人としての在り方生き方を考察させる。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導(校内研修)	教員のスキルとニーズに応じた個人研修を充実させるとともに組織的な授業研究を推進する。	本校の教育目標、各分掌の重点目標を達成するために、職員が「Find! アクティブラーナー」を活用し、各自のスキルとニーズに合わせて研修が進められるよう支援する。		
		「主体的・対話的で深い学び」の授業実践ができるよう、授業改善シートを活用し、年間を通じたマネジメントサイクルを取り入れることにより、組織的な授業改善を推進する。		
	「8つの資質・能力」をどのように育成するかを考慮して年間指導計画を作成し、授業改善につなげる。			
授業改善を推進し、グランドデザインで挙げられている「8つの資質・能力」の育成を図る。		新学習指導要領の趣旨を踏まえ、3観点による観点別評価を確実に実施し、授業改善につなげる。		
		単元(学習内容のまとまり)ごとに学習の振り返りを行い、主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、授業改善につなげる。		
		考査問題の質を向上させ、定期考査の学習が学力の向上につながるようにする。(5教科の考査問題は、共通テストの傾向を踏まえ、思考力や読解力育成に資する作問をする。)		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

生徒指導	状況を的確に捉え、主体的に考え行動することができる自主・自律した生徒を育成する。	「非行防止教室」や日頃のホームルーム・集会等の教育活動を通して、規範意識を向上させ、ルールやマナーの大切さを理解して主体的に行動できる生徒を育成する。					
		携帯電話の使用について、校内外におけるルールやマナーの遵守、緊急時の対応など、自ら考え行動をとることができる生徒の育成に努める。					
		生徒会活動・各種委員会活動の充実を図り、生徒一人ひとりが学校行事に積極的に参加することにより、自主・自律の精神を涵養する。					
		基本的な生活習慣を身に付け、下校時間の厳守により家庭学習時間の確保を図り、自らの希望進路実現に向けた質の高い文武両道を目指す。					
	安心・安全な環境を整える安全管理に努める。	交通マナーの意識を向上させ、交通事故「0」を目指す。特に、バイク通学者、バイク免許取得者、自転車通学者に対して加害者側の可能性・危険性も含めそれぞれの指導を行う。					
		人権教育やいじめについてのホームルーム、学年集会等を通して、相手の立場や気持ちをくみ取り尊重することを学ばせ、自他を大切に思いやりの心を育成する。					
		部活動における事故やケガの防止や早期対応のための準備に努める。					
		不審者情報の速やかな提供等、危機管理マニュアルの活用により安全対策を図る。					
	自らに自信を持ち、素直さ、思いやりの心、感謝の心を持つ生徒を育成する。	日々の授業や清掃活動、「奉仕活動」等の体験活動に真摯な態度で臨ませることにより、信用を得るということ学ばせ、謙虚・感謝の心を育成する。					
		「立ち止まって挨拶」「校門一礼」を奨励し、感謝の心を育み、心のかもった挨拶ができる生徒を育成する。					
		部活動加入率90%以上を目指すとともに、各活動を通して生徒の自己指導能力を育み、人間形成を図る。					
		各部活動等による上位入賞(全国大会出場…3部、九州大会出場…5部、県大会出場…12部)を目指す。					
キャリア教育	生徒の社会性・自己肯定感を高め、早期からの進路意識の高揚を図る。	生徒の進路意識を高めるために、「進路講演会」や「進路ガイダンス」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させる。					
		「総合的な探究の時間」はキャリア教育の視点、及び、大学進学・公務員就職での活用の視点を持ち、1年次に「進路探究」、2年次に「地域協創プロジェクト」を取り入れ、主体的に自分の進路について考えさせる内容にする。					
		生徒の進路希望を的確に把握するために、各学期1回の進路希望調査を行う。また、生徒のキャリア意識の形成を図るために、各学年と提携して「ポートフォリオ」、「キャリア・パスポート」を記入させる。					
	課外・長期補習・土曜セミナーの更なる充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。	生徒の進路希望実現を図るために、課外授業・長期補習・土曜セミナーを効果的に実施する。					
保健	生徒の心身の健康の保持増進を図る。	健康観察シートを活用し、生徒の健康状態を把握するとともに、感染症予防や感染拡大防止のための早期対策を図る。					
		教育相談委員会を定期的に開催し、「気になる生徒」や「配慮を要する生徒」に関する情報を職員間で共有し、対応について協議する。また、その対策については、学校全体で組織的にあたる。					
		スクールカウンセリングや心の健康相談、訪問相談等を計画的に実施し、学校医やSC、SSW等の指導・助言を受けながら、関係職員や関係機関と連携し、生徒や保護者の支援に当たる。					
		健康診断や教育相談等の結果を受け、疾病の早期発見・早期対応に当たり、疾病を予防する。また、必要に応じて保護者及び関係専門機関と連携し、継続的な支援を行う。					
	学校安全及び環境衛生の整美に努める。	安全衛生点検や検査を行い、必要に応じ事務室と連携して改善に当たる。					
		学校薬剤師の指導のもと、学校環境衛生検査の実施報告を行い、環境衛生の整備に努める。					
		「美化充実期間」において、日常の清掃状況を評価し、清掃の徹底を図る。					
	委員会活動の活性化を図る。	委員会活動をおとして、個々の潜在能力を生かし、主体的に行動できる生徒育成を目指す。					
		生徒会組織の一員としての役割を考え、組織活動の必要性和重要性を体験できるようにサポートする。					

企画広報	在校生・中学生・保護者・同窓会・地域社会に対する広報活動を充実させ、魅力的な八女高の姿を発信していく。	年間を通して、校内外の生徒の活動を記録し、収集する。						
		魅力あるホームページ・「八女高だより」を作成し、生徒の意識高揚及び生徒募集につなげる。						
		校内掲示板・立て看板・横断幕等の作成及び効果的な活用を行う。						
		学校行事等に際して外部機関への取材依頼等を適宜行い、発信する機会の増加に努める。						
	教職員間や保護者との連携を促進しながら活動を支援し、諸行事の円滑な遂行を図る。	各分掌との打ち合わせを密にし、学校行事等が円滑に運営できるよう支援する。						
		月行事予定表を前月半ばに配付し、職員・生徒の有効な活用を促す。						
		職員・PTA役員・保護者間の連携を密にし、PTA活動が充実するよう支援する。						
		職員室の整理整頓を促し、職員の働きやすい環境づくりに努める。						
		月当番を中心とする親交会行事運営への支援を通して、職員間の親睦深化に努める。						
第1学年経営	八女高生としての基本的な生活習慣を確立させ、人間力の基盤を育成する。	生活のリズムを確立させ、健康管理への意識を高めさせることにより、出席皆勤率70%以上を目指す。						
		円滑な人間関係を形成するため、心のこもった挨拶や場に適した言葉遣いができるよう指導する。						
		社会から信頼される人間を育成するため、時間や期限、公共の場のルール・マナーを順守することの大切さを伝え実践させる。						
		当たり前にある日常のありがたさに感謝し、校門一礼や学習環境を整えるための清掃活動を積極的に取り組むよう指導する。						
		相応しい服装・髪型とは何か考えさせ、共通認識のもと全員で日常的に一貫した指導を行っていく。						
		部活動加入を奨励し、集団内での人間関係構築力やコミュニケーション力などを養う。						
	進路実現のために意識を向上させ、基礎学力の定着を図る。	充実感あふれる「できる授業」を展開するため、指導内容・指導方法(基礎・基本の反復学習等)の工夫改善に取り組み、実力向上を図る。						
		「総合的な探究の時間」を充実させ、課題の解決や探究活動をするための土台作りを行う。						
		学ぶ楽しさ、学ぶ意義を感じることで自ら学ぶ姿勢を形成させ、家庭学習時間の目標を平日150分、休日300分とし、最終的には平均180分以上を目指す。						
		進研模試の国数英総合成績の全国偏差値54以上(国公立大合格の目安)に100名以上を目指す。また、習熟クラスについては、全国偏差値62以上を目標とする。						
		定期的に学年通信を発行し、新課程による学習や進路に関する情報を生徒や保護者に逐一提供する。						
		成績不振者に対して正副担任と教科担当者の連携のもと、その原因を早期に把握し、十分な指導を行う。						
	学校生活を通して自他の良さを気付かせ、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	学校行事やイベントに積極的に参加させ、行動力や的確な状況判断力を養い、今後リーダーシップを取ることができる生徒を育成する。						
二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。								
学年集会で先生方からの講話や外部講師を招いた講演会を行い、広い視野を持った生徒を育成する。								
定期的に学年通信を発行し、様々な生徒の日常生活や活躍を示すことで、日々の自らの行動に自信を持たせる。								

第2学年経営	自らの変化・成長の為に挑戦する行動力を養い、自己表現することができる生徒を育成する。	学校行事や外部研修に積極的に参加させることで、何事にも挑戦する行動力を養うとともに、0から1を生み出す創造力や他人を巻き込み協働する協調性を養う。					
		HRや総合的な探究の時間等の諸活動を通して、外部講師や多くの先生方からの講話に触れる場を設定するとともに、自分の意見を分かりやすく伝える「発信力」と相手の意見を理解しようとする「傾聴力」を育成し、多種多様な価値観や人間性を認め、いく優しさや心のしなやかさを養う。					
		部活動や学校内の集団内でのリーダーの経験をさせ、人間関係構築力やコミュニケーション力などを養い、人前で自己表現する機会を設定する。					
		二者面談や三者面談を充実させ、保護者との連携を十分に図りながら、生徒の挑戦を促す言葉がけや環境づくり、保護者の見守り、支援体制の構築を図る。					
	集団生活の中で自律・自治の精神を養い、主体性・社会性・協調性を育成する。	新たな生活を早期確立させるために、手帳やメモ帳を使い自己管理能力を向上させ、出席皆勤率70%以上を目指す。					
		HR等の中で、生徒が自己決定していく場を設定し、自律・自治の経験をさせる。また、委員会の仕事や係業務を通して、自分から進んで物事に取り組む「主体性」を育成するとともに、遂行させることで責任感ややり抜く力を養う。					
		学校内外において場に応じた挨拶や言葉遣いとは何か考え判断させ、実践させるとともに、15分間の掃除を確実に行わせる中で、「何の為に掃除するのか」を考えさせる。					
		学校内外問わず、時間や期限、規則といったルールやマナーを守ることはどういうことなのかを考えさせ、その中で、社会性の獲得のため、ルールを守れない生徒に対しては、「悪いことは悪い」と毅然とした態度で共通認識のもと一貫した指導を行う。					
	基礎学力の定着を図り、進路実現に必要な知識やスキル、進路意識を身に付けさせる。	平日150分、休日300分の家庭学習の習慣を定着させ、進路目標に応じて自立型学習ができるように、レベル別に応じた課題や復習の提示を工夫して行う。					
		充実感あふれる「できる授業」を展開するため、授業規律の徹底、予習や課題提出の徹底を図るとともに、習熟度別クラス編成のメリットを活かし、各教科で連絡を密にしながら上位層と下位層の双方の学力を伸ばす授業を行う。また、課外や土曜セミナーを活用し、生徒のニーズに応じた指導の充実を図る。					
		進研模試の国数英総合成績の全国偏差値54以上(国公立大合格の目安)に100名以上を目指す。また、習熟クラスについては、全国偏差値60以上を目標とする。					
		成績不振者に対して、正副担任と教科担当者、保健室や保護者との連携のもと、その原因を早期に把握し、個に応じた指導を行う。					
第3学年経営	進路実現に必要な人間力を育成するためのキャリア教育を充実を図る。	学校行事や部活動等を通して、周囲の意見を傾聴し、その考えについて推察・尊重・共感するとともに、自分の考えを適切に伝え、ともに理解し合い、考えの対立を調整するリーダーシップやコミュニケーションスキルを養う。					
		それぞれの生徒が活躍する場面を考えた授業を構築していくことで、自己存在感を感じさせ、学習意欲を高めさせる。基礎学力を活かして異なる知識を組み合わせたり、さまざまな角度から柔軟に考えたりすることで、論理的な思考力や創造力を養う。					
	共感的人間関係を育成する。	自分自身や人間関係に悩んでいる生徒に対しては、保護者や職員間だけでなく、関係諸機関とも必要な情報を共有し、受け止め、次の一歩が踏み出せるように支援していく。					
		二者面談や三者面談、日常の会話を通して、将来のために、今、何をすべきかを諭したり、自分の生き方や将来等について思いをめぐらすように示唆したりする。					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

評価項目以外のものに関する意見